

Medical News



特集

AYA世代がんの医療と支援のあり方

—AYA世代支援チームの取組み—



当院では、AYA世代(思春期・若年成人)に対する医療・支援体制の強化を目的に、「AYA世代支援チーム」を設置しました。医師、看護師、薬剤師、MSW、事務スタッフなど多職種で連携し、治療のみならず、精神的・社会的サポートも包括的に提供しています。本号では、当院のAYA世代支援の取組みを紹介します。

AYA世代がん患者さんを 独りにしないために ～当院の取組み～

●乳腺科 医長 山元 奈穂

皆さんは「AYA」という言葉をご存じでしょうか。AYAとは、**A**dolescent and **Y**oung **A**dult(思春期・若年成人)の頭文字であり、15歳から39歳を指します。

15歳の頃、皆さんはどのように過ごされておりましたか？20代はどうでしょう。30代は？もちろん、今まさにその年代の方もいらっしゃるでしょう。多くの方にとってAYAはまだ成長過程であり、新しい社会に足を踏み入れ、多様な出会いや人生のイベントが盛りだくさんの時期です。この頃に、がんなどの病気によって生活が大きく影響を受けることを懸念する人は少ないでしょう。

しかし、日本では年間約2万人がこの年齢でがんに罹患しています。がん患者さん全体から見ると2～3%に過ぎませんが、AYA世代のがんはその後の長い人生に大きな影響を与えます。この世代には特有の様々な問題があり、特別な支援が必要とされています。

では、AYA世代ががんに罹患した際にどのようなことが問題となるのでしょうか。

妊娠するための力(妊孕制^{にんよう})への影響

がん治療は多くの場合、手術、放射線照射、薬物投与などを組み合わせる集学的アプローチで行われます。骨盤周囲への手術操作や放射線照射、抗がん剤治療などは、卵巣や精巣に大きなダメージを与え、妊娠するための力を大きく損なう、または失わせる可能性があります。抗がん剤以外の薬物投与も妊娠に影響を及ぼす可能性があり、生殖機能に直接関係のない部位への手術であっても、身体イメージの変化が原因で、子どもを持つ希望を失う可能性があります。

就学・就労への影響

がんの治療は度重なる通院や入院を必要とし、学校や職場から長期間離脱せざるを得ない場合があります。

す。学業の遅れは精神的な孤立感を生み出し、就労への影響は経済的困窮や社会的孤立につながります。AYA世代への治療による経済的負担は、治療終了後も長期的に影響を及ぼすことが複数の研究で指摘されています。

家庭・子育てへの影響

AYA世代は子育て中の方も多く、自身が家庭の中心である割合が高い世代です。核家族化の進む現代では頼れる存在が少なく、個人の負担が非常に大きくなります。子育てと治療の両立は就労継続を困難にし、経済的なリスクをさらに高める可能性もあります。

患者数の少なさによる問題と孤立感

AYA世代は全がん患者さんの2%に過ぎません。そのため、この世代のニーズに合った医療情報が少なく、周囲からの理解も得にくい傾向があります。使用可能な公的資源も少なく、経済的問題にも結びつきます。複数の調査で、多くのAYA世代患者さんが「孤独感・孤立感」を感じているという結果もあります。

当院では、年間約30人の新規AYA世代がん患者さんを診療しています。85%は乳腺科の方ですが、血液内科、消化器外科、泌尿器科、呼吸器内科などにも患者さんがいらっしゃいます。第4期がん対策基本計画でもAYA世代のがん対策は推奨されており、国指定の地域がん診療連携拠点病院である当院でも、病院全体でこの問題に向き合うことが求められています。

当院では、2023年に**AYA世代支援チーム**を発足しました。医師1名、看護師6名と薬剤師、MSW(医療ソーシャルワーカー)、事務スタッフが各1名の少人数で、初めは乳腺科のみを対象に支援活動を開始しました。「ゆっくりでも確実に、あきらめない」をモットーにして、対象を病院全体に広げて活動を継続中です。

現在、当院では次のような取り組みを行っています。

多職種によるアプローチ

対象者を見つけることができなければ、何も始まりません。主治医からの情報提供に加え、患者さんが気軽に声をかけやすい環境を整えることも重要です。また、複数の部署で対象患者さんを意識できるように、多職種でチームを組んでいます。さまざまな角度から支援に漏れがないよう努めています。

適切な情報提供

リーフレットを作成し、妊孕性温存の情報提供を行っています。学会提供の冊子などでもできる限り早くお渡しすることを心がけ、まずご自身の状況を知っていただくよう努めています。

妊孕性温存医療専門機関への迅速な橋渡し

将来、子どもを持つ希望を失わないために、専門機関で卵子や精子、パートナーとの受精卵などを採取し、凍結保存(温存)しておく、「生殖機能を保護する医療(妊孕性温存医療)」があります。治療が一段落した時点で、「温存した検体を用いて妊娠・出産に臨む(温存後生殖補助)医療」も含まれます。兵庫県にはこうした医療に対する助成金制度があり、認定された施設であれば費用補助を得て治療を受けることができます。当院では専門施設への橋渡しが速やかにできるよう、提携紹介状の作成や勉強会への参加等を通じて連携を図っています。

就労支援 (がん相談支援センターの取組み)

当院がん相談支援センターでは、兵庫医科大学病院と連携し、社会保険労務士・ファイナンシャルプランナー

と直接Webで相談ができる取り組みを行い、就労や経済的問題の解決に向けた支援として活用しています。

メールによる個別相談対応

多くの患者さんは、診察室で治療以外の内容を話すことをためらわれます。妊娠・出産といったデリケートな内容や経済的な問題は、特に相談しづらい内容でしょう。当チームでは相談までの垣根を低くするため、AYA世代の方に対し、メールでの相談窓口を設けています。相談先は、リーフレットのQRコードを読み込むだけで、すぐに確認できます。

我々は診察室の内外から、すべての方が孤立することのないよう、長期的かつ継続的な支援や適切な情報提供を心掛けていきたいと考えています。この機会に、AYA世代がん患者さんに少しでも意識を向けていただけたら幸いです。よろしくお願い申し上げます。



乳腺科外来における AYA世代患者さんとの関わりと支援

●看護部 外来 師長代行 牟田 真理子

当院ではAYA世代の患者さんの多くが、乳腺科を受診されています。

私は乳腺科外来で勤務しており、日々多くのAYA世代の患者さんに関わらせていただいています。

乳腺科外来では、AYA世代の患者さんががんと診断された際、主治医が専用のリーフレットを用いて妊孕性について説明します。その後、患者さんやご家族の希望を確認し、治療方針に合わせて適切なタイミングで対応を相談していきます。

がん治療が始まる前に、妊孕性について患者さん本人やご家族に考えていただけるよう、必要な情報を提供し、患者さんやご家族の意思を尊重して対応す

ることが最も重要だと考えています。また、妊孕性以外にも、就職や学業などについて、医療相談室やがん相談支援センターと連携し、患者さんやご家族に情報提供を行い、意向に沿った対応を心がけています。

子育て中の患者さんには、お子さんへの伝え方について、ご家族と一緒に相談しながら最適な方法を考えていきます。AYA世代の患者さんが何に苦悩し、どんな点に迷っているのかを理解し、どのような支援が必要かを常に考えています。

治療開始後も、外来に来られた際には、患者さんやご家族が話しやすい環境を整え、迅速に対応できるよう努めています。



入院中に寄り添う支援 看護師のサポート

●看護部 4階西病棟 看護師 松林 史子

私はAYA世代支援チームの看護師として、乳腺科病棟に勤務しています。

乳がんは30代の女性の罹患率が高く、当病棟にも20代後半から30代のAYA世代の患者さんが手術や薬物療法のため多く入院されています。そのなかで、妊孕性の温存、仕事の継続への不安や経済的な悩み、子どもへの病気の伝え方など、この年代特有の不安を患者さんからよく伺います。

妊孕性の温存については外来でも確認していますが、患者さんの気持ちは病状や周囲の環境によって変化するものです。最初の希望と異なり、入院中に新たに妊孕性の温存を希望される場合でも、主治医やAYA世代チームと情報を再度共有し、迅速に対応できるよう努めています。

また、仕事の継続や経済的な不安に関しても、退院後も継続して相談ができるよう、窓口であるがん相談支援センターを紹介し、患者さんの支援を行っています。

さらに、お子さんへの病気の伝え方について悩む患者さんも少なくありません。そうした方々にはリーフレットをお渡しし、伝え方のアドバイスをしています。またMSW(医療ソーシャルワーカー)と情報を共有し、伝えた後のお子さんや患者さん自身のサポートも行っています。

AYA世代の患者さんは多くの不安を抱えつつも、周囲に助けをを求めることをためらうことが多いと言われています。短い入院期間ではありますが、そうした患者さんの小さなサインも見逃さないようにし、継続的な支援につなげていきたいと考えています。



未来を見据えた支援 AYA世代の患者さんとソーシャルワーカー

●医療相談室 医療ソーシャルワーカー 原田 かおり

医療ソーシャルワーカー(社会福祉士・公認心理師)は、AYA世代支援チームの一員として、患者さんやご家族の生活全般に関する困りごとを支援しています。

患者さん自身はもちろん、ご家族に対するサポートも行い、治療に対する不安や疑問をお伺いし、医師や看護師などの専門職へつなぎます。また、患者さんがより快適に生活できるよう、経済面や就学・就労に関することなどで利用できる制度について情報提供を行っています。さらに、患者さん同士が支え合う場として「がんサロン」などの案内もしています。

AYA世代の特徴の妊孕性温存や、未成年のお子さんがある患者さんとそのご家族への相談も行っています。最近では、お子さんへのケアを通じて患者さんが安心して治療に専念できるよう、スクールソーシャルワーカーと連携した支援を行いました。

治療と仕事の両立や就職支援に関しては、地域の両立支援促進員や社会保険労務士、ファイナンシャルプランナー、ハローワークと連携し、困りごとの軽減や情報提供を行っています。

公認心理師として、気持ちの辛さや不安、苦痛などについて一緒に話しをすることで、少しでもこころの負担が軽くなるよう寄り添い、必要に応じて緩和ケアや精神科の専門医へつなげています。

AYA世代の患者さんは、ライフステージに応じて相談内容や必要な支援が多様化しています。

「若いから大丈夫」ではなく、「目の前の治療」と「未来の生活を見据えた治療」を提供できるよう、これからもチーム一丸となって患者さんとそのご家族等をサポートしていきます。



治療と生活を両立するために 薬剤師の介入

●薬剤室 薬剤師 堀端 真次

AYA世代のがん患者さんにとって、がん薬物療法の継続は治療成功の鍵となります。しかし、薬物療法にはさまざまな副作用を伴う可能性があり、副作用への不安や発現は、患者さんの治療継続への意欲を低下させる要因となります。特にAYA世代は、治療と同時に学業や仕事、家族との時間を両立する必要があるため、治療に対するモチベーションや副作用の管理が非常に重要です。そこで、私たち薬剤師の介入は、非常に意義があると考えています。

近年、多様化するがん薬物療法において、医師が事前に説明し、患者さんから同意を得ていても、全ての患者さんがそれを十分に理解することは難しくなっています。そのなかで、薬剤師が、薬物療法の副作用や治療スケジュールを再度説明することで、患者さんの治療に対する理解を深めることができます。

これにより、患者さんの副作用への不安感が軽減し、適切な対応ができるため、生活の質を保ちながら治療を継続する支援になります。

一方で、妊孕性と抗がん薬の関係については、まだ十分な情報が揃っておらず、画一的な対応が難しい場合もあります。そのため、患者さん一人ひとりに向き合った個別の対応が必要であると考えています。AYA世代の患者さんは、さまざまなストレスや要因の中で治療を行っているため、意思表示や相談が思うようにできないこともあります。その際は、私たち薬剤師がサポートできることもあると思いますので、遠慮なくご相談ください。

今後も病院と地域が一体となり、より良い医療を提供していきたいと考えています。どうぞよろしく申し上げます。



乳がん看護認定看護師の役割

乳がん看護認定看護師・特定看護師 富加見 由希

乳がんの治療は、手術・薬物療法・放射線治療を組み合わせた集学的治療が中心となります。当院の乳房手術の特徴として、自家組織による乳房再建術が受けられることから、治療における選択肢の一つになっています。術式の選択に加えて、術前・術後の薬物療法の実施や薬剤の選択、妊孕性温存や遺伝子検査など、治療に関する意思決定が連続的に行われます。

病気や治療について、インターネット検索ができることは便利ですが、SNSやブログを通じて誤った情報などに接し不安を抱くこともあります。その結果、意思決定が難しくなる場面も少なくありません。正確で最新の情報を得ることで、患者さんが納得して治療を選択し、安心して治療を受けられるよう、各種

パンフレットの提供や患者向けガイドラインの活用、乳がん相談などをご提案しています。

乳がんはAYA世代～超高齢者まで、幅広い年代の患者さんがおられ、それぞれのライフステージによってさまざまな課題に直面することがあります。また、10年間のフォローアップが必要なため、再発や転移への不安を抱えながらの生活が続きます。このため、患者さんやご家族の価値観や背景を理解し、その思いに寄り添うことが、乳がん看護認定看護師の役割であると考えています。当院には2名の乳がん看護認定看護師が在籍し、患者支援センターや医療相談室、がん相談支援センターなど多職種と協働しながら、通院のサポートに取り組んでいます。

英ウィメンズクリニック さんのみやクリニック

今回は、『英ウィメンズクリニック さんのみやクリニック』を訪問し、
妊孕性温存に関する取り組みを伺いました。



◎クリニックについて

2000年3月垂水で不妊専門クリニックとして開院、2004年4月に現在の場所に移転し「さんのみやクリニック」として診療を続けています。垂水区(たるみクリニック)、西宮市(にしのみや院)に分院があり、患者さんの治療内容に応じて連携しています。

◎患者さんについて

阪神間からの来院が多いですが、兵庫県北部や四国など遠方からも受診されています。

年齢は40歳前後で、乳がん治療中の方が多くいます。また、同じ建物内に「英メンズクリニック」も併設しており、1日30名～40名が来院されています。

◎診療の特徴

生殖医療という特殊な分野ですので、専門用語が多く出てきます。当院では、YouTube動画を多く作成し専門用語や仕組みについての患者さんのご理解をサポートしています。

生殖医療に特化したクリニックとして、全国的に見ても有数の症例数を自負しております。患者さんが前向きになれるよう努めていますが、成功率は低く

長期間の通院が必要なこともあります。

当院では、西洋医学に加え、鍼灸や漢方などの統合医療を取り入れた専門外来の開設やカウンセリング部門の充実(臨床心理士が在籍)を図っています。さらに、「スマイルピクス」を開催し、ストレッチやフィットネスを通じた妊孕性向上に取り組んでいます。胚培養士も重要な役割を果たし、卵子の状態を知りたい方の専門外来を設けています。

◎ひとこと

がんの診断直後に妊孕性温存を考えることは大変ですが、少しでも情報をもっといただき来院のうえ、妊孕性についてお手伝いできることを一緒に考えていければと思っています。

また、他院との連携の重要性も感じております。患者さんの疾患や治療について学ぶことで、よりよい支援につながるものと感じております。引き続きスムーズな連携に向けて取り組んでいきたいと考えています。

<お話し>

副院長・妊孕性温存部門部長 岡本恵理先生
看護部門研究リーダー 藤井美喜先生

英ウィメンズクリニック さんのみやクリニック

住 所:神戸市中央区三宮町1丁目1-2

三宮セントラルビル2・7・8階

電 話:078-392-8723

休診日:年末年始のみ

受付時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
8:30～16:00	○	○	○	○	○	△	△
17:00～19:30	○	/	○	/	○	/	/

△…15:00まで



2024年10月
Vol.207

神鋼記念病院

Contents

- AYA世代がんの医療と支援のあり方
-AYA世代支援チームの取組み-
- 乳がん看護認定看護師の役割
- 開業医探訪

■ 神鋼記念病院理念

公益性を重んじ、質の高い医療を通して皆様に愛される病院を目指します。

■ 基本方針

1. 快適な医療環境と医療設備を整え、安全で質の高い医療を提供します。
2. 患者さんの人格や価値観を尊重し、プライバシーを守ることを約束します。
3. 断らない救急医療を目指し、地域社会の信頼と期待に応えます。
4. 地域の医療機関や行政との連携を密にし、切れ目のない医療サービスの提供に努めます。
5. 高い医療技術を持った人間性豊かなスタッフを育成します。
6. 職員が心身ともに健康で、一人ひとりの能力を発揮できる職場づくりを推進します。

社会医療法人神鋼記念会 神鋼記念病院

〒651-0072 神戸市中央区脇浜町 1-4-47

TEL:078-261-6711 (代表)

FAX:078-261-6726

URL:https://shinkohp.jp

発行責任者: 理事長 山本 正之

編集責任者: 神鋼記念病院広報委員長

松本 元

詳しい情報はこちらから!!

神鋼記念病院 🔍 検索

https://shinkohp.jp

